

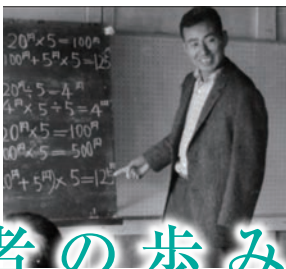
戦傷病者史料館

# しょうけい館 通信

戦後80年

今振り返る戦傷病者の歩み

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.



## TOPICS

P1 令和6年度 春の企画展

P3 学芸員コラム「開館18周年 活動を振り返る」

P6 インタビュー 次世代の語り部として活動する思い

Vol. 003

November 2025

# TOPICS 1 企画展 紹介

## 戦後80年 今年の活動について

今年、戦後80年の年となりました。

1952(昭和27)年に設立された日本傷痍軍人会が、約60年の活動期間を経て2013(平成25)年に会員の高齢化により解散してから、はや10余年の時がたとうとしています。

今年で、開館18年目を迎える当館は、戦後80年の節目の年に、未来に向けて語り継いでいくための展示や活動に、取り組んでいく予定です。

(表紙は、新旧2つのしょうけい館の施設や展示品、活動の様子を示す写真で構成しています。)

### 春の企画展

## 春の企画展 綴られた思い —戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶—

春の企画展は、「綴られた思い—戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶—」と題して、戦傷病者やその妻の記した体験記を紹介します。

体験記には、自分の経験した戦争の時代、軍隊生活、戦争による受傷病、困難を抱えながらも家族や仲間を支え

られながら生き抜いた戦後などが記されています。

1945(昭和20)年8月15日の終戦から長い年月が経過し、戦傷病者や妻の体験を直接聞くことが難しくなってきました。しかし私たちは、戦傷病者が遺していった言葉や体験記から多くのことを学ぶことができると考えています。

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 会 期 | 令和7年3月4日(火)より6月1日(日)まで  |
| 会 場 | しょうけい館 2階企画展示室          |
| 時 間 | 10:00～17:30(入館は17:00まで) |



体験記『大事な私の覚え書』



春の企画展チラシ

### テーマ別展示

## 箱根療養所

年初に3階テーマ別展示コーナーの展示替えを行いました。今回のテーマ別展示は「箱根療養所」と題し、3月30日(日)まで開催の予定です。

箱根療養所は、戦争で重い障がいを負ったり、重病を患ったりして自分だけの生活が困難となった兵士を収容するために1908(明治41)年に作られた施設、「廃兵院」をその起源とする病院です。箱根療養所では、特に脊髄を

損傷して車いす生活を送る事となった兵士が多く集められ、病院の中で療養しながらの生活を送っていました。

今回の展示では、入所者に提供されていた食事の献立表など、箱根療養所での生活に関する資料を中心に紹介しています。また、当時の生活の様子や行事などを記録した貴重な記録映像の上映も行っています。

※会期が変更となる可能性があります。最新の情報はホームページでご確認下さい。



展示風景



展示資料

### 来館者の感想

戦争はあつてはならないもの、そして、未来の平和のために、過去の戦争を後世に伝えていくことの重要性を改めて感じることができました。

10代女性



また大人になったら来たいなと思えるような展示でした。戦争のおそろしさ、ざんこくさなどを知れてすごく良かった。

10代男性



当時の軍医の方の貴重なお話が聞けてとても勉強になりました。当時の方は責任感の強さ、任務に対し、全力を尽くしていることがわかりました。

30代男性



# 開館18周年 活動を振り返る

## しょうけい館は今年3月で 開館18周年を迎えます。

しょうけい館は、戦傷病者とその家族が体験した戦中・戦後の労苦を伝えるために設置された国の施設です。開館に先立って、日本傷痍軍人会と日本傷痍軍人妻の会が中心となって、会員である戦傷病者から体験記や歴史資料の寄贈を募り、証言映像の撮影を行うなどしてきました。そして、2006年3月20日に開館式が行われ、翌21日に開館となりました。

以降、多くの戦傷病者とご家族だけでなく、各地の傷痍軍人会が見学に訪れていました。展示や証言映像を見て往事を振り返り、感慨にふける方、戦地で夫の置かれた状況を見て涙を流す方、改めて体験記を書こうと思った方、家にしまってある義肢や軍隊の資料を寄贈しようと思って下さった方、今度は子供と孫を連れてくるよと言って下さった方など、戦傷病者とそのご家族の体験した戦中・戦後の労苦を展示する施設が完成したことを心から喜んでくれた方が多かったと聞きます。一方で、証言映像の収録などを続けていく中で、遅かったじゃないか、もっと早く来れば戦友を紹介できたのに、といった声もありました。もっと早く着手していれば、もっと沢山の証言を残すことができたという事実は、年々切迫感を増しています。



開館式の様子 2006年3月20日



移転前のしょうけい館 2006～2023年



移転に向けた制作検討会議の様子 2023年4月



野戦病院ジオラマの人形の引越し 2023年8月



再オープンセレモニー 2023年10月25日

2013(平成25)年の日本傷痍軍人会、日本傷痍軍人妻の会の解散まで、しょうけい館は日本傷痍軍人会が受託運営にあたっていました。同解散は館にとっても画期となり、運営事業は新たな課題に向き合うものとなっていきました。ご存命の戦傷病者には、資料寄贈を呼び掛け、証言映像の収録を依頼し、展示を行うといったしょうけい館の基本的な使命は変わらないものの、戦争を知らない世代に、戦傷病者の体験をどのように伝えていくか、特に学校で行っている平和学習に何が提供できるのかといった、次世代継承の取り組みが目指されていくことになりました。

2015(平成27)年度からは、昭和館、平和祈念展示資料館とともに出張巡回展示として、他の道府県をまわる「地方展」が始まりました。全国のより多くの人に戦傷病者の労苦を伝える場として、現在まで毎年開催しています。

2016(平成28)年には、戦後世代の語り部育成事業(厚生労働省委託事業、昭和館、中国帰国者支援・交流センターでも実施)が始まり、同年に1期生、2017年に2期生、2018年に3期生を募集し、それぞれ3年間育成しました。現在では、3期生まで合わせて21名の語り部が在籍していますが、1期生の活動が始まった2019年はコロナ禍の始まりの年となり、活動がやむなく一時休止となってしまいました。

2020(令和2)年、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、団体見学や語り部活動の休止、密回避のため来館者スペースの制限、休館など、活動には大きな制約が生じた時期もありました。そのような状況の下、立地している九段南エリアが地域の再開発区域となり、移転のための準備が始まりました。

2023(令和5)年8月から10月24日まで、移転のため施設は休館し、10月25日に九段北にリニューアルオープンとなりました。リニューアルに際して、戦傷病者とそのご家族が体験した労苦を自分ごととして考えられるよう、常設展示には映像やガイドを多く加えました。今後も私たちは多くの方々に、戦傷病者の体験した戦中・戦後の労苦をお伝えするために日々邁進していきたくて思っております。

TOPICS  
3  
レポート

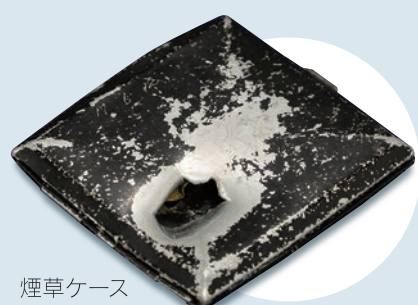
# オンライン学習支援 プログラムの紹介

今年度、中学・高校の団体向けプログラムとして、オンライン学習支援プログラムを制作しました。このプログラムは、学校への資料レプリカの貸出と、オンライン会議システムを用いたスタッフによる解説をセットにしたものです。実物資料を忠実に再現したレプリカを手元で観察しながら、戦争当時の時代背景や戦傷病者に関する解説を聞くことができるので、中学・高校生により深い理解を促せる構成となっています。

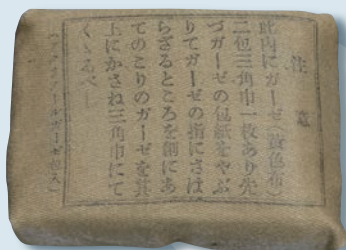
また、オンラインでの実施を前提としておりますので、どれだけ遠方であってもインターネットが接続でき、オンライン会議が利用できる環境であれば場所を問いません。平和学習や総合的な学習の時間で利用できるプログラムをお探しの学校関係者の方がいらっしゃいましたら、ぜひお申し込み下さい。

問い合わせ先：しょうけい館事務局  
電話：03-3234-7821 メール：yoyaku@shokeikan.go.jp

## 資料レプリカのイメージ



煙草ケース



繃帯包



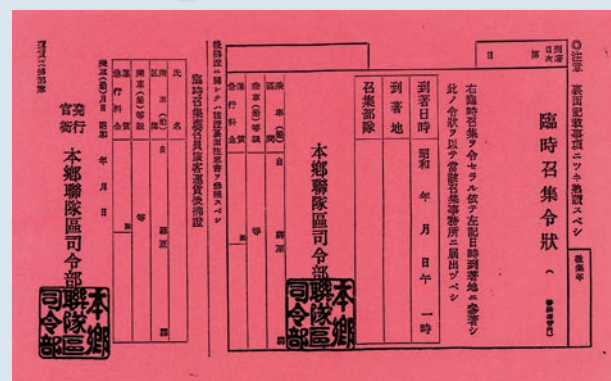
摘出弾



義手



義眼



臨時召集令状

TOPICS  
4  
特集

## インタビュー 次世代の語り部として活動する思い

しょうけい館では、戦傷病者とそのご家族の体験を戦後世代の語り部が語り継ぐ、次世代の語り部講話活動を行っています。語り部は、3年間の研修を修了した男女21名です。館内の資料をもとに当時の社会状況などを交えながら戦傷病者の体験を伝えています。

今回は、当館で活動する保坂さんに語り部を目指したきっかけや活動に対する想いを伺いました。

### —語り部を目指したきっかけを教えてください。

もともと戦争の歴史に興味を持っており、関連の書籍を読んだり、資料館を巡って勉強をする中でしょうけい館を知りました。展示品や、戦傷病者とそのご家族が体験を語る映像を見て、とても心を動かされたことを覚えています。そのことを一人でも多くの人に伝えたいと思っていたところ、偶然館内に掲示していた「語り部募集」のポスターを見ました。運命的な出会いを感じて語り部になることを決意しました。



講話の様子



講話の様子

### —今までの講話活動の中で印象に残っていることを教えてください。

館内を見学した一般の団体に向けて講話をした後に、参加者同士が講話内容の感想を述べたり、ご自身の親族の戦争体験について話し合っていたことが、印象に残っています。

講話をきっかけとして、戦傷病者の体験を自分ごととして捉え、誰かに伝え、そして戦争について考えてくれたことが嬉しく、とてもやりがいを感じました。

### —語り部講話を通して伝えたいことを教えてください。

戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えることに加え、どんな困難をも乗り越えてきた戦傷病者の逞しさを多くの方に伝えたいです。私が講話で紹介する戦傷病者の方は、人生を諦めてしまうような苦勞がありながらも明るく強い心をもって生きてこられました。その姿は、現代社会を生きる私たちにも様々な希望を与えてくれる力があると思います。近年、戦争が止むことはなく、世界が危機的状況にさらされています。私たち語り部にできることは限られていますが、戦傷病者の体験を正しく伝え、講話を聞いた方々が平和について考え、次の世代につながるような活動を、地道に続けていきたいと思っています。



保坂 弘子(ほさか ひろこ)

2016年にしょうけい館の語り部に応募。3年間の研修を経て次世代の語り部として活動を開始。講話活動以外にも、しょうけい館の受付業務を行っている。講話では、南方での戦闘で両腕を失い、片眼をも失明してしまった戦傷病者の話と、三組の戦傷病者夫婦の話をしている。

語り部の講話は毎月第二日曜日に開催する定期講話会のほか、団体見学などで聴くことができます。詳細はホームページをご確認ください。

## イベントスケジュール(予定)

3/4 火 ▶ 6/1 日

春の企画展「綴られた思い」

4/13 日

語り部定期講話会(4月)

5/11 日

語り部定期講話会(5月)

6/3 火 ▶ 10/13 日

戦後80年特別企画展「水木しげる特別展」

6/8 日

語り部定期講話会(6月)

7/13 日

語り部定期講話会(7月)

## 戦傷病者・ご家族へのお知らせ

### 資料寄贈のお願い

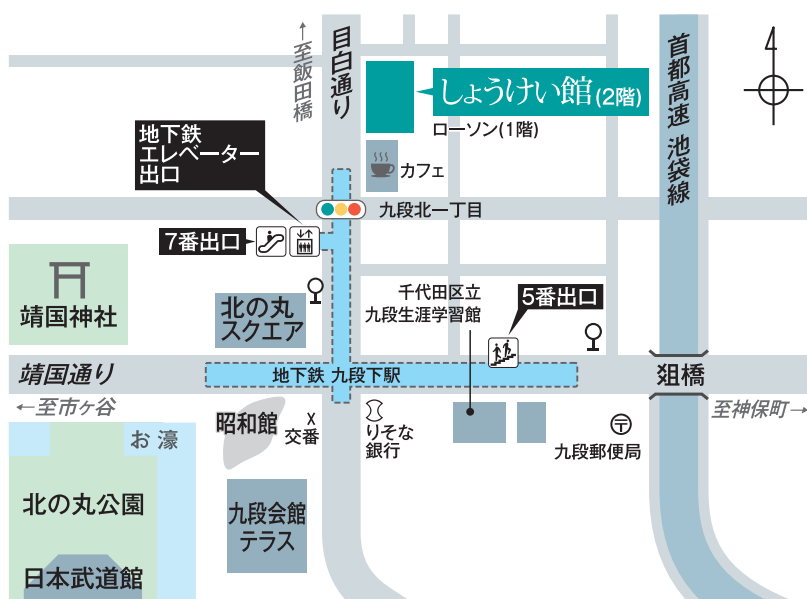
戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

### 証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とそのご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力頂ける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

## ご来館のみなさまへ



### 地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ  
九段下駅(東西線・半蔵門線)  
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄  
九段下駅(新宿線)  
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

### バスを利用の場合

- 都営バス  
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス  
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。



[www.shokeikan.go.jp](http://www.shokeikan.go.jp)

東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階

Tel: 03(3234)7821 Fax: 03(3234)7826

開館時間: 10:00 ~ 17:30(入館は17:00まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)

